

「528Hz」を自分で奏でる方法

ソルフェジオ周波数の一つ「528Hz」が自律神経を整えるのによいという話がTVや本で紹介されています。

”ピッチを自由自在に動かすことができる”というお箏の長所を生かし、実際に「528Hz」をより多く含む音楽を自分たちでも奏でられるように表を作りましたので参考にご覧下さい。

(確かめてみると、527Hzなど誤差が生じることもありましたが、ほぼ528Hzの音を出すことができました。)

*** チューナーを444Hzに設定してから調絃します。**

	平調子	四平 九調 一子 音から	乃木調子	楽調子	雲井調子
一	C	C	C	D	C
二	F	F	F	G	F
三	G	G	G	A	F#G \flat
四	G#A \flat	A#B \flat	A	C	A#B \flat
五	C	C	C	D	C
六	C#D \flat	C#D \flat	D	E	C#D \flat
七	F	F	F	G	F
八	G	G	G	A	F#G \flat
九	G#A \flat	A#B \flat	A	C	A#B \flat
十	C	C	C	D	C
斗	C#D \flat	C#D \flat	D	E	C#D \flat
為	F	F	F	G	F
巾	G	G	G	A	G
	ささくく らら舞 曲・六 段・	ず歌日本 め・この 手わら 鞠・べ す	た夕 きや 火け 小 や け	様飛 ・躍 立・ 春 雨 水 殿	

*** また普段よく使う壺越(一=D)でも、チューナーを432Hzに設定して調絃した場合、温かみが増す、自然な感じがする、と心地良く思われる方が多いようです。**